

副腎腫瘍と鑑別困難であった成人後腹膜奇形腫の1例

大阪赤十字病院泌尿器科 (部長: 西村一男)
恵 謙, 大森 孝平, 西村 一男

A CASE OF RETROPERITONEAL TERATOMA IN AN
ADULT RESEMBLING ADRENAL TUMORS

Yuzuru MEGUMI, Kouhei OHMORI and Kazuo NISHIMURA
From the Department of Urology, Osaka Red Cross Hospital

A retroperitoneal teratoma arising from the vicinity of the upper pole of the right kidney in a 61-year-old woman is described. Computed tomographic (CT) scan showed well marginated fat density mass with calcification. Magnetic resonance imaging (MRI) on T1 weighted image and T2 weighted image showed a high-intensity mass above the upper pole of the right kidney. Needle biopsy under computed tomography was performed, but no specimen was obtained. The preoperative diagnosis was retroperitoneal teratoma or right adrenal myelolipoma.

The tumor was resected and the histological diagnosis was benign retroperitoneal cystic teratoma.
(Acta Urol. Jpn. 45: 37-39, 1999)

Key words: Retroperitoneal tumor, Teratoma, Difficult diagnosis

緒 言

奇形腫は骨盤腔内, 特に卵巣に好発し後腹膜腫瘍中における頻度は低いことが報告されている。今回われわれは, 右腎上極近傍の後腹膜腔に発生し, 副腎腫瘍と鑑別が困難であった奇形腫の1例を経験したので報告する。

症 例

患者: 61歳, 女性。

現病歴: 検診でエコー上右腎上方に腫瘍性病変を指摘され, 1996年11月12日当科初診した。CT上右腎上方に石灰化を伴う腫瘍を認め, 精査目的に入院となった。自覚症状はなく, 腹部腫瘍も触知しなかった。一般検血, 生化学検査, 尿検査に異常を認めなかった。

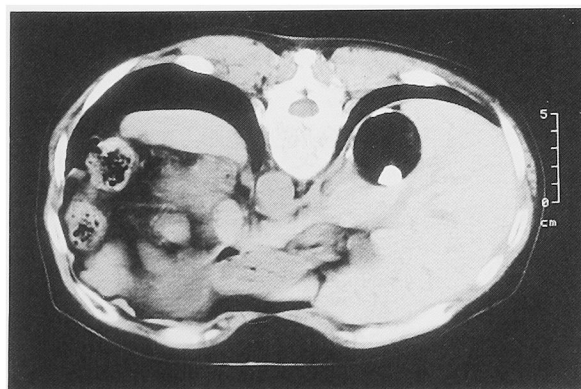


Fig. 1. CT scan shows well marginated fatty mass with calcification.

X線検査: DIP では上部尿路に異常なく, 右腎上方に石灰化を伴うX線透過性の腫瘍陰影を認めた。腹部CTでは右腎上方に, 境界明瞭, fat densityで内部均一な, 石灰化を伴う45×40mm大の腫瘍を認めた (Fig. 1)。腹部MRIではT1強調像, T2強調像, プロトン密度強調像のいずれでもやや不均一で, 脂肪と同程度の高信号の腫瘍として描出された (Fig. 2)。なおCT, MRIともに正常右副腎像は明らかでなかった。内分泌学的検査では異常を認めなかった。

後腹膜奇形腫, あるいは右副腎骨髄脂肪腫の疑いで, CTガイド下針生検を施行したが, 油滴様の液体成分のみで病理組織診断に供することはできなかった。

以上より後腹膜奇形腫あるいは, 右副腎骨髄脂肪腫を疑い, 1997年1月20日腫瘍摘除術を施行した。

手術所見: 手術は第11肋骨床切開にて行った。腫瘍は右腎の上方に右腎と接して存在し, 副腎を圧排していた。副腎の一部を含めて腫瘍を摘出した。摘出標本は45×40×40mm, 重量は60gで表面平滑, ほぼ球形で, よく被膜化されていた。断面では黄色調のボマード様の内容物が充満しており, 毛髪および歯牙と思われる石灰化を認めた。成分分析によると内容物は脂肪族エステルであった。

病理組織学的所見: 腫瘍は正常副腎と接して存在し, その被膜は線維性結合織よりなり, 毛幹を認めた。悪性所見は認めなかった (Fig. 3)。以上の所見から本腫瘍は外胚葉由来の毛髪および中胚葉由来の脂肪組織, 歯牙を含んだ二胚葉性の良性嚢胞性奇形腫と診

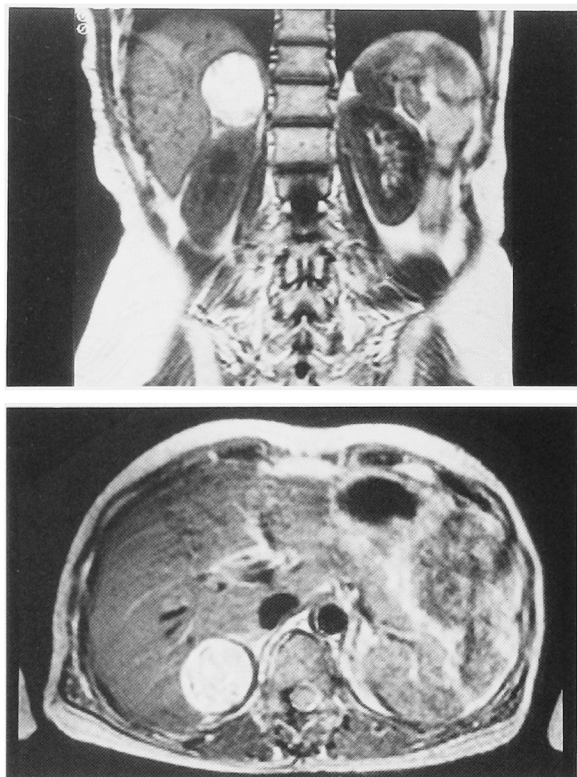


Fig. 2. MRI on T1 weighted image (upper) and T2 weighted image (lower) showed a high-intensity mass above the upper pole of the right kidney.

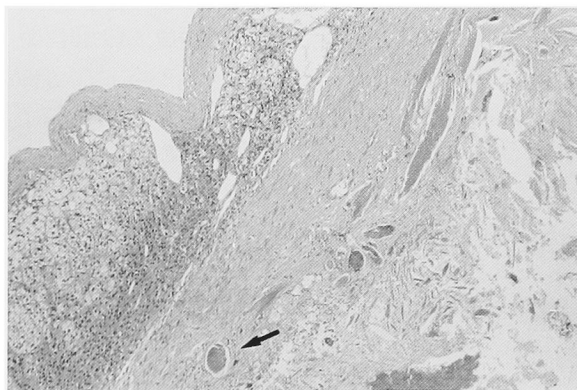


Fig. 3. Microscopic findings show the ectodermal component of hair shaft (arrow) from fibrotic capsule, and normal adrenal tissue (left side) ($\times 200$, H-E staining).

断した。

考 察

奇形腫は基本的には三胚葉成分から構成される腫瘍と定義されているが、広義には二胚葉や単胚葉性のもとも含まれている。好発部位としては、卵巣がもっとも多く、精巣、縦隔、後腹膜腔がそれに続いている¹⁾。後腹膜奇形腫の発生頻度は後腹膜腫瘍の約6～11%とされている²⁾。その発生は小児に多く Palumbo ら³⁾は後腹膜奇形腫の過半数が10歳前、90%が30歳前

に発見されたと報告している。成人例については1937年に Mecray ら⁴⁾が最初に報告しているが、比較的稀で Bruneton ら⁵⁾が1980年に31例、本邦では増田 ら⁶⁾が1996年に59例を報告したにすぎない。

臨床症状では腹痛、腹部腫瘤の触知が多く、本症に特有の症状は認められないといわれている。

後腹膜奇形腫の画像上の特徴としては、腹部単純X線では本症例のごとく石灰化像を認めることが多い。

CT上は脂肪成分や石灰化を認めることが多いが、その内部構造は多彩であり嚢胞性奇形腫は通常良性で、充実性の多くは悪性とされている⁷⁾。Bruneton ら⁵⁾は後腹膜奇形腫26例中16例(61.5%)に石灰化をともなっていたが石灰化像は良性の指標にはならず、悪性例でも12.5%に石灰化像がみられたと述べている。また早坂ら⁸⁾は後腹膜奇形腫11例のCT像につき検討を加え、良性と悪性の鑑別にはdynamic studyが有用で、悪性奇形腫では辺縁不整、内部不均質な造影効果を有する傾向にあるとしている。

MRIの画像上の特徴についての報告は未だ少ないが⁹⁾、Choi ら¹⁰⁾はCT、MRIのいずれでも腫瘍の5つの成分すなわち adipose tissue, bone, hair, sebum, fibrofatty tissueを描出可能であり、またMRIはCTに比べ大動脈、下大静脈、腸間膜血管、門脈の描出に優れ、それらと腫瘍との関係が明瞭であったとしている。

奇形腫の治療は術前、良性か悪性かの診断が困難であり、また成人後腹膜奇形腫31例中8例(25.8%)に悪性所見を認めたという報告もあり⁵⁾、完全な摘除が原則である。良性例ではほとんどの症例で容易に摘除されており、われわれの症例でも同様であった。

予後は良性例では良好であるが、悪性例では浸潤、癒着などのため摘除は困難となり、摘除後の再発などのため不良となることが多い。悪性例の最長生存期間については、Engel ら¹⁾が術後9カ月半、Bruneton ら⁵⁾が症状出現後18カ月であったと報告している。

副腎骨髓脂肪腫も奇形腫と同様脂肪成分を含み、また稀に石灰化を含むことがあり¹¹⁾、同部位に発生した奇形腫との鑑別は困難であると考えられる。しかし副腎骨髓脂肪腫では内部が脂肪、造血組織、出血巣の混在のため不均一であることが多い。

本症例では腫瘍内に石灰化を認め、また腫瘍の内部構造が均一な脂肪組織と考えられ、奇形腫を疑ったが、副腎骨髓脂肪腫の可能性もありCTガイド下針生検を行った。しかし確定診断は得られなかった。

結 語

右腎上極に発生し、術前右副腎腫瘍と鑑別困難であった成人後腹膜奇形腫の1例を報告した。

本論文の要旨は第159回日本泌尿器科学会関西地方会にて発表した。

文 献

- 1) Engel RM, Elkins RC and Fletcher BD: Retroperitoneal teratoma: review of the literature and presentation of an unusual case. *Cancer* **22**: 1068-1073, 1968
- 2) Gschwend J, Burke TW, Woodward JE, et al.: Retroperitoneal teratoma presenting as an abdominal pelvic mass. *Obstet Gynecol* **70**: 500-502, 1987
- 3) Palumbo LT, Cross KR, Smith AN, et al.: Primary teratomas of the lateral peritoneal spaces. *Surgery* **26**: 149-159, 1949
- 4) Mecray PM Jr and Frazier WD: Retroperitoneal teratoma. *Arch Surg* **35**: 358-367, 1937
- 5) Bruneton NJ, Diared F, Druillarad PJ, et al.: Primary retoperitoneal teratoma in adults. *Radiology* **134**: 613-616, 1980
- 6) 増田 均, 当真嗣裕, 釜井隆男, ほか: 後腹膜腔に発生した成熟型奇形腫の1例. *泌尿器外科* **9**: 137-139, 1996
- 7) Lambrianides AL, Walker MM and Rosin RD: Primary retroperitoneal teratoma in adults. *Urology* **29**: 310-312, 1987
- 8) 早坂和正, 山田有則, 吉川大平, ほか: 後腹膜奇形腫の CT. *臨放線* **38**: 1515-1520, 1993
- 9) Terada Y, Kato A, Kishi H, et al.: Nuclear magnetic resonance imaging of a benign cystic teratoma in the retroperitoneum. *J Urol* **137**: 106-108, 1987
- 10) Choi BI, Chi JG, Kim SH, et al.: MR imaging of retroperitoneal teratoma: correlation with CT and pathology. *J Comput Assist Tomogr* **13**: 1083-1086, 1989
- 11) Behan M, Martin EC, Muecke EC, et al.: Myelolipoma of the adrenal: two cases with ultrasound and CT findings. *Am J Roentgenol* **129**: 993-996, 1977

(Received on July 11, 1998)

(Accepted on September 4, 1998)